

大震火

大正十二年

五月

十日

午後

西片町二〇の八
入深達吉

女大途宮師正王

山階宮常子

賀鷹宮好子

閑院宮實子女王

山階宮武彦王妃佐紀子殿下

島津志重 渡辺勝三郎

松方正義 松岡康毅

園田孝吉 磯部四郎

吾妻勝剛 二條厚基

大島茂昌 大橋重威

安田善雄 今福忍

黒不欣堂 張

佐藤銅次郎
大杉源
高見基受
大村重一
大橋重威
岩倉具綱
石丸重実
野呂景茂
坂本金弥
中谷弘吉
木大口一
大森房吉
隈徳三

伊藤野矢
木下湖文
破部直
菊地三九郎
大橋重威
岩倉具綱
石丸重実
野呂景茂
坂本金弥
中谷弘吉
木大口一
大森房吉
隈徳三

肥田七郎
岩田一郎
岩田作次郎
柳沢光邦
舟木練太郎
坂口仁一郎
大谷喜之藏
池田清三

北多摩郡 尻藏野村
境二口
田中滝五郎

南橋原 南金六町十番地
青三三〇番五 川村徳太郎
京橋區 金六町十二番地
松井角平
京橋區水堀町十一丁目十番地
青山 四五九九 新橋演舞場工務所
増田外次

新橋演舞場株式會社
新橋區川町八
町田福徳
池田水東
57721
86685
22218
73758
92929
22724
874
95953
59953
335883
55300
41988
3/6037

中西天王寄十ヤ橋ノ次ノ橋南

郵便支店長菅波

六月廿午出帆ノ豫定

熱田より島川まで

軍艦名取由良

明後日熱田発ノ豫定ナルモ

着港出帆未定

名古屋市九六一才里

神田沓路町二ノ八

渡辺清

中花川区厚所百四十七

定崎修三郎

高崎五二五八

塚原用造

山田守弘

法野二ノ手

満尾三郎

南九郎 込込所同進會

名古屋市中区廣小路小坂三〇

村井代助

東京市中央郵便局

私書函才三十八号

東京日々新聞發行所

有乐町一丁目二番地

技元長丈

火震大

府下目黒所

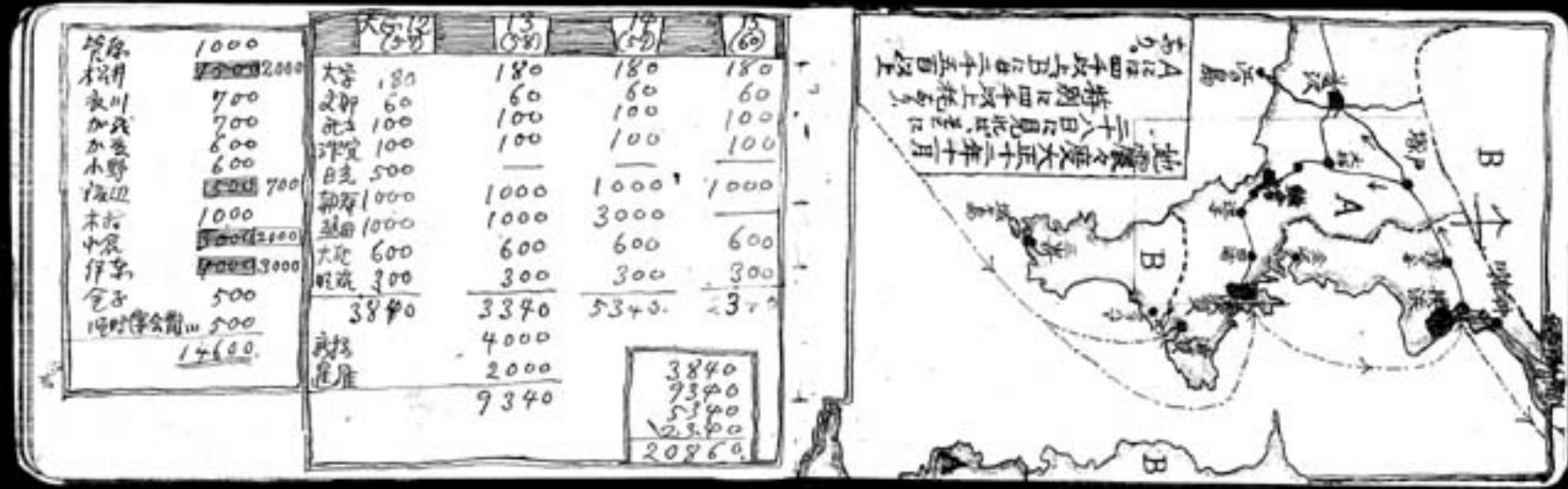
上目黒 六三六

千阪洋三郎

右馬所一ノ一

三善伸二号

内村洋四



◎第二窟左右二菩薩
 大同順三年歲次癸丑
 天竺十二載
 第一窟中央本尊左右二菩薩
 門上之小窟
 開元十九年歲次辛未。
 乙卯十五日辛卯畢功
 京兆。干鍊書
 門側磨崖
 嘉祐八年
 治平丙午

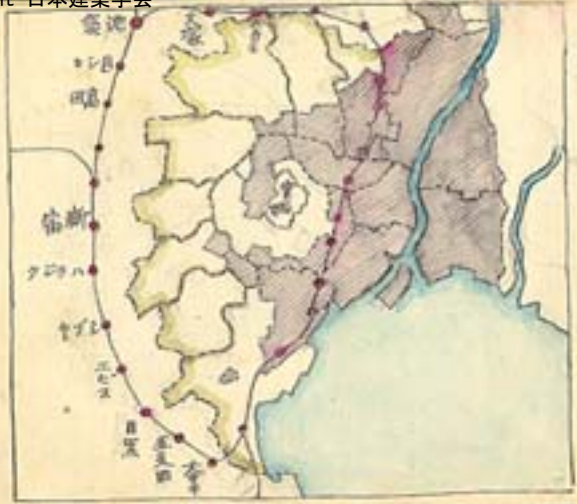
◎駝山
 一長安二千
 二窟六朝
 三窟景天窟六朝
 中尊坐像高サ十八尺
 四窟唐
 五窟唐
 六窟唐
 千佛山
 大隋開皇七年

◎災害に關スル感想

- 一、未嘗有ク大災
- 二、震災ハヨリハ大災
- 三、火災ヨリ人ハ惡化式嚴令
- 四、秩序ノ混亂
- 五、コレ天意カ
- 六、天ノ輕侮ト天罰銀ニテト增長カ今如何
- 七、東京ハ無用意ニ膨張セリ
- 八、今後ハ緊縮
- 九、建築ノ制限
- 十、廣キ街路、低キ家、廣場
- 十一、下町ハ耐震耐火
- 十二、併シ東京ハ地ノ利ナレ
- 十三、地盤ニ重クイカラ金ヲカケテ駄目
- 十四、地震ハ百年以内ニ之ヲ破壞ス
- 十五、巨雨モ烈シ
- 十六、京都遷都可ナリ

◎目見聞瑣談

- 一、人心灼々(朝鮮義勇隊中ノ情報)
- 二、名古屋混雜(舞臺神宮前河津町)
- 三、火災被害ノ情况
- 四、荒野者連立鞋生(松本信州ノ戦争)
- 五、戒嚴令(二歩入シ)
- 六、川口町ノ有極(廿万人災ナシ)
- 七、博多丸(敵襲班ノ一員トシテ)
- 八、横浜港口ノ慘狀(油海賊ノ破片)
- 九、船中(陸上ノ火)一日滞在
- 十、上陸
- 十一、入京
- 十二、嘔吐
- 十三、帝大
- 十四、諸統計



天柱摧
地維欽

コンスタンチノープル	577 AD.	10000
ナボリ	1626.	70000
シリ	1697	10000
北京	1731	76000
カイロ	1754	40000
ワシントン	1755	50000
クワクトア	1823	36000
ニ陸(日)	1870	27000
メキシコ	1878	162000
サンフランシスコ	1871	?
東京及附近	1723	100000

世界大地震
九件

① 総算 472円 ② 準備
250 白乳
③ 流費 291 官給
東京-弱岡百 = 82 25 補給
静岡-大城切符也 = 57 565

12.6

● 著述令 十月廿七(古作)

/ 建築トハ何、一住宅大修、一その自
 / 住宅の理念三條件、一堅固^①、一衛^②、一高^③
 / 木造ハ如何、①ト②ニ欠点アリ、③ハ問題
 / 木造の①②ヲ補フモノハ鉄筋コンクリート
 / 鉄筋コンクリートト③ノ問題
 / ①ノ解決
 / 本館建築等ト外建築等
 / 地震と火災
 / 地震と火災大
 / 今回ノ建築ハ自ラ概ルモノ
 / 安心ノ出来ル家ニ住メ、自ラ在位シ、
 / 人々ヲラスルナ、欧米ノマデラスルナ、
 / ×一冊ナリ

● 東亞 十月十七(京洋大)

一 大震ハ不足等、大々有之ニ未
 二 天災ト雖モ人ヲ救フヤリシ故集
 地^地ニ此ナリ
 三 天公ヲ無知地^地ニ守家^{守家}使シタ
 四 堅固ノ系、木造^{木造}建築^{建築}地^地ニモ、棟^棟比^比ト
 五 地盤^{地盤}、設計^{設計}、施工^{施工}、関係^{関係}、ソノ例^例
 六 木造^{木造}、煉瓦^{煉瓦}、鉄骨^{鉄骨}、コンクリート^{コンクリート}ノ耐震力
 七 煉瓦^{煉瓦}、木造^{木造}ハ、後^後、
 八 石^石、煉瓦^{煉瓦}、コンクリート^{コンクリート}
 九 震災^{震災}、伴^伴、又^又、火^火、性^性、度^度、ヲ研究^{研究}シ、テ、
 十 手^手、素^素、火^火、耐^耐、元^元、用^用、意^意、ヲ、考^考、ヘ、
 / 四十五分
 十一、自ラ、祝^祝、夕^夕、禱^禱、天^天、ヲ、帳^帳、ハ、自^自、ラ、有^有、
 十二、今^今、始^始、ラ、大^大、ア、モ、コ、ノ、修^修、状^状、ヲ、交^交、復^復、ス、

二十八日(日) 五時茗溪會
二十九日(月) 二時華波會

十一月四日(月) 出祭
十一月五日(日) 伊勢神宮
七日(朝) 堀京

●東京二千八百万坪

公園地帯

- 一 土地敷地七坪分
- 一 濠川 百万坪
- 一 丸の内芝 五十万坪
- 一 丸の内下 二十万坪
- 一 不忍池 十万坪
- 一 浅草 五万坪
- 一 日本橋 五万坪
- 一 関口 五万坪
- その他小公園十ヶ所(十万坪)
- 合計二百五十万坪
- 市、十四万坪

東京の現公園 三十五万七千六百八十八坪

是の分より建由地内ニテ
設けられた

倫敦 一人、付二、六八坪

巴里 一人、付二、二二坪

東京 一人、付一、七七坪

東京ハ倫敦ノ一六、一六

細音ノ十分ノ一、一

東京ノ十倍ニ至リテ一人一坪トセリ

梵音漢譯

瓦	羅	耶	庵	波	那	他	沙	迦	阿
聿	利	夷	弱	比	尼	知	尸	祇	夷
宇	琉	輸	牟	不	奴	都	蘇	狗	優
銜	礼	穢	迷	吠	彌	帝	世	揭	鐵
俄	羅	輸	莫	保	讓	多	曾	功	咭



彌丘權迷打
都迦莫多

蘇迦莫知



美盛

揚弥

一、アチの發達は窮て
二、トームの發生は終て

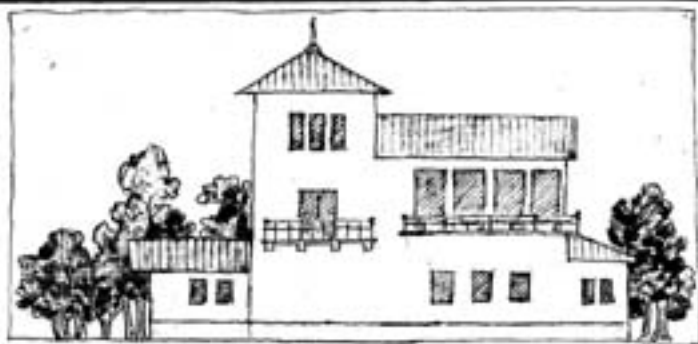
● バラックの美

● ① 巴里とは何れも合手細工の食舎小屋をく一時
的半永久的のこふり五年十年令や建つたか
あつたの命。形ある皆皆美あり、バラックと思ふ物
はドント建築は中流はあつた。趣意の交番
も實際小屋にも賦が休屋の若屋に於てある

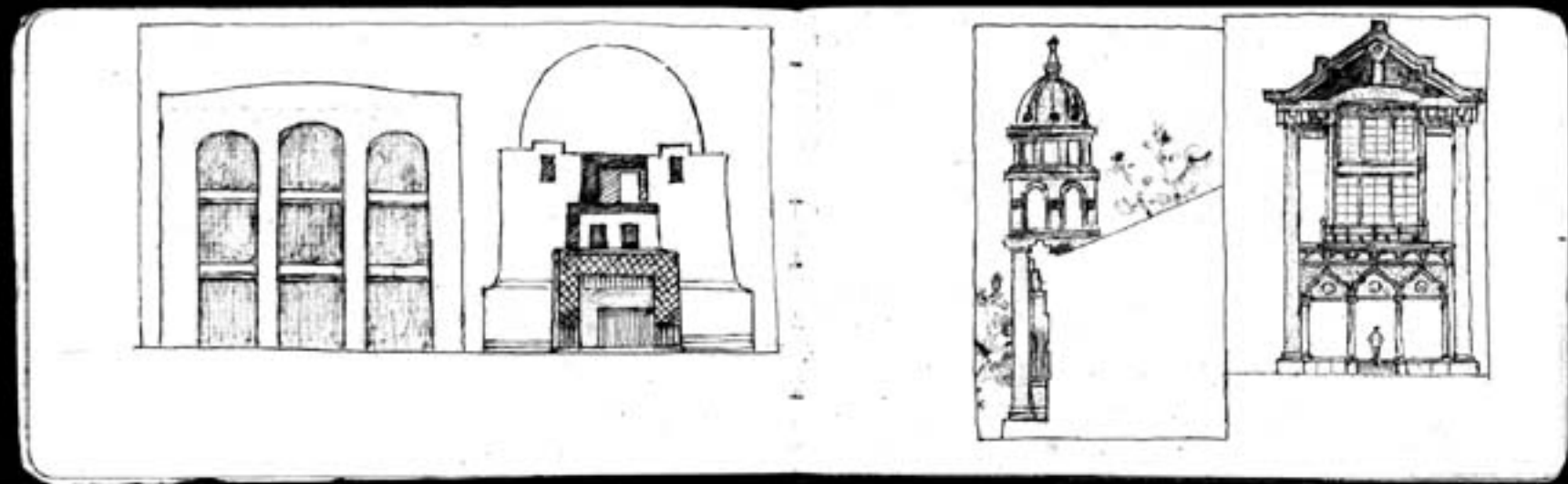
● ② バラックの考案の根柢は永久物を模つる
のふ、輕易輕薄すれ勿れ、安ん材料チウマク
食舎ハセル安かロイマツアは困る。未成、気合元
氣澄測ラレ、コレカラ發達スルト云フ、氣合生レ、
カキテ小供、氣合ワルク大人ビ、テ堅マツテバイケ
ナイ。

● ③ 未成、氣合、元氣澄測ラレ、錢マツテ仕舞
元氣歸ナリ、固マツテはイケナイ、コレカラ發達
スルト云フ、氣合生レ、コレカラ發達スルト云フ、氣合生レ、
カキテ小供、氣合ワルク大人ビ、テ堅マツテバイケ
ナイ。

● ④ 此の木造木物デハタマヒ色で見せる。
大に博覧會ニ平和紀念が好い。考案者
只し興蒙的にて、タマヒ青千本、細いから
考へよ。



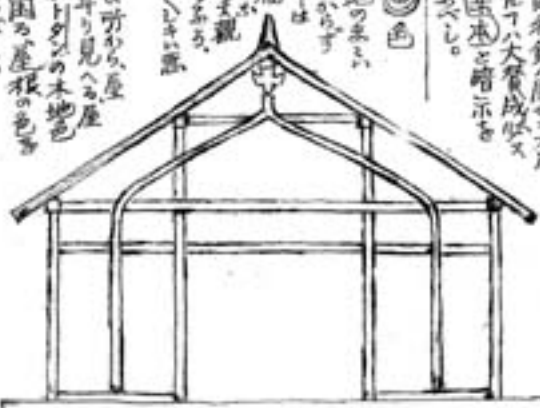
1. 窓況
2. バラックの形
3. 鐵條
4. バラックの色
5. 柱尾





着板ニテモ東洋風
味カモ面白シ支那風モ
可印度風モ可サラモ
尤モ可日本風云々ハ
及バズ古イ西洋風ハ

ガラスは元來
文藝的/修達
裝飾はシカ
軒文々ハ間
壁ではあり
集團トシテ見
ルニ性質
各戸互ニ中し
合せて統一トシ
イナクハケテ
建テハ軒
文々面白ク
出来テモナン
コトナラヌ
單純ニハ故
形ノ變化多
ク壁ニモレテ
障子奇ノ物
ヲハカク
若屋トシテ切
妻ニテ三角
妻ニテ窓等
加テテ出
構造的/利用時
裝飾ニテ様々
ナレニ是程ハ
板カコカレ



面白カラ全然新シキハ
理想的ナルモ六カレハ
或敗利鈍ハ聞セテ大胆
ニ試テハ大成成敗ス
建築本と暗示を
与へシ。
◎色
木地のまゝ
宜しからず
防雨
りマシ
とモある
カクモキ
高い所から屋
根降り見へる屋
根カトクシの木地色
ヲ八圍ル屋根の色等
考へおへし
眞黒テモイケズ目ニハ青ク系統ノ色カコロレ
樹木の無イカラス青モ所々ニハヨレ褐色相色
兒色茶色等ノ間色ヨレ原色を避けよ
模様ヲ画クナリ宜シ

面白カラ全然新シキハ
理想的ナルモ六カレハ
或敗利鈍ハ聞セテ大胆
ニ試テハ大成成敗ス
建築本と暗示を
与へシ。
◎色
木地のまゝ
宜しからず
防雨
りマシ
とモある
カクモキ
高い所から屋
根降り見へる屋
根カトクシの木地色
ヲ八圍ル屋根の色等
考へおへし
眞黒テモイケズ目ニハ青ク系統ノ色カコロレ
樹木の無イカラス青モ所々ニハヨレ褐色相色
兒色茶色等ノ間色ヨレ原色を避けよ
模様ヲ画クナリ宜シ

建築

- ① 建築の師匠としての建築
- ② 建築の師匠としての建築
- ③ 建築の師匠としての建築
- ④ 建築の師匠としての建築

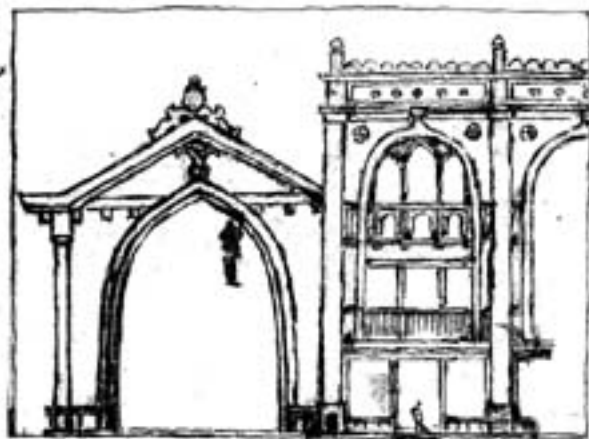
公団

- ① 公団の建築
- ② 公団の建築
- ③ 公団の建築
- ④ 公団の建築
- ⑤ 公団の建築
- ⑥ 公団の建築
- ⑦ 公団の建築
- ⑧ 公団の建築
- ⑨ 公団の建築
- ⑩ 公団の建築

土木建築の師匠としての建築

又スタイルの考案

- ① 建築の師匠としての建築
- ② 建築の師匠としての建築
- ③ 建築の師匠としての建築
- ④ 建築の師匠としての建築
- ⑤ 建築の師匠としての建築
- ⑥ 建築の師匠としての建築
- ⑦ 建築の師匠としての建築
- ⑧ 建築の師匠としての建築
- ⑨ 建築の師匠としての建築
- ⑩ 建築の師匠としての建築



- ① 都市の美観ハ重大ナリ
- ② 即チ都市の建築の形式ハ重大ナリ
- ③ 近頃米國流のマンション式高層建築流行スルモ、アレハ米國ノ低級ノ事務所建築ノ模倣ニテ美ヲ失ハズ、然ラノ外人ハ之ヲ見テ不快感ズルニアラスヤ
- ④ 此際何等ノ日本趣味ナキ度ク云ハバ東洋趣味ヲ基礎トスル美建築ヲ起シテハ如何
- ⑤ コレガ目大体的ノ案ハ六ヶ數キモノナルベキモ、研究スベキ價値アルベシ
- ⑥ 建築學會ニ復興院ヨリ諮問シテ成案ヲ徴シヨリ
- ⑦ コノ成案ヲ標準トスベキヲ建築担当者ニ示シテハ如何

帝都計画の根本義

① 序論

② 地理

地上高地、敷地、埋立地、敷地の公同、
埋立、池、水場、伊和、大連、
世界由緒—財源、
風、向、敷地の配置、水場、

③ 歴史

日本歴史—江戸、歴史—

史蹟、古蹟、古建築、保存—

④ 具作の方針

環状放射線、
敷地の、敷地の、
地形、曲方の、

⑤ 結論

都市の大、人の多、
内容、充実、



日々新刊 四月の部 (十一月十五日)
日中建築は、（自他作由）
築造せしむるにす （耐震）

神話の六續のあり (十一月五日)

改定あり (十一月三十日)
西衣笠人と社寺建築

●地震地

清水寺下の建仁寺塔

下谷町廣徳寺

安政の大蛇腹と浅草の塔

小田東之殿 （安政二年十二月出版）

江戸の町區、防火

大正十二年の地震を增上寺の事
がある。耐震構造は大事である。
當時増上寺は、殆ど少しも乱動
せぬであつた。



漆器

一、一尺五寸二寸四分深一尺一寸

二、一尺二寸五分深一尺

A 瓶三

B 瓶一

右外と同様黒漆で仕立一具



二箇

簞皿盛豆筵	各一個
錫酒瓶	二個
右寛政三郎	

宣聖像（坐牟婁郡尾鷲村人某氏所藏也）

靈容秀口出古色儼然蓋千年之物也先人為郡時得之而奉祀于家先人嘗言尾鷲僻阪不容有此尊像也因考尾鷲古隸志摩豈志摩國蠻所奠祀者也耶且言私家奠祀恐不稱靈明將奉致諸官也不果而卒勇也不肯固不勝奉

嚴祀且有先人之言今將奉于官也畧錄其原由于画上云

万延元年秋七月

仁井田勇謹識

資生堂銀堂升町堀乙製

ヒムロウ下

喘息の妙藥







国歩艱難



意匠の線と色ノ向題
 線ノ組合セ、變化ト統一
 日本流ノ場合柱、長押、床ト天井、
 建具障子、障子ノ棧、ロレ丈テハ物足ラズ
 出窓、格子小縁、手スリ床欄、
 直線ノ配合并行線
 ナホ補フモノハ欄、其堂、テレフと椅子、

具体的ハ微妙ニシテ空ミ云ヘス
 質素ニシテ趣味深カレ
 エラクナルハ趣味アリト思フハ吾人
 米ノ飯ノ如ク澁泊ズイマテモ飽キメカヨレ
 濃厚ナルハ一寸ヨケレドイナニナリ
 質素ト云フモカマシヤノ無味ハタタ
 四角十箱様ヲ往ヘ天物ヲ入レルニヨリ人ハ物
 成ス



赤の妖怪を退治せよ

● 眼の錯覚見

一 序言、

二 錯覚とい何、その原因は現象と矯正利用の途

三 錯覚の現象

四 建築と錯覚

五 古今の例ー日本より行われ

六 實例の説明

い 水手線と鉛直線ーその適用

ろ 線の長さの錯覚しその適用

は 線の交叉し直線へ彎曲、实例に外線の働きしその適用

ほ 位置の轉換による錯覚感

へ 色の濃淡による錯覚見

- 鉄筋利
- 一 腐ラスー
- 二 焼ケラスー
- 三 地震に堪ゆるー
- 木造ノ利
- 一 腐ラスー
- 二 焼ケラスー
- 三 趣味ノ堅さー

濕氣	鉄筋	木造
腐朽	不利	不利(但場所ノ大、 利(但場所ノ小、 乾燥スルニ)
火災	利	不利(但場所ノ大、 利(但場所ノ小、 乾燥スルニ)
震災	利	利
仕事	利(但場所ノ大、 利(但場所ノ小、 乾燥スルニ)	利(但場所ノ大、 利(但場所ノ小、 乾燥スルニ)
工費	不利(但場所ノ大、 利(但場所ノ小、 乾燥スルニ)	利(但場所ノ大、 利(但場所ノ小、 乾燥スルニ)
趣味	不利	利
濕気	不利(但場所ノ大、 利(但場所ノ小、 乾燥スルニ)	利

前提

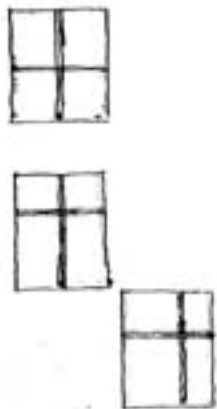
1. 建築士資格ヲ得ル
 2. 覚書ヲ認メ、畢設計ヲ完成セリト認ム
 3. 社採見積ハ畢設計以上即5本設計ノ一部ニ入ルモト認ム
 4. 性質ハ紀念建築物(学会) 特殊ノモ(士会)ト認ム
 5. 設計調査ノ旅費日当ハ当然支拂ハルト認ム
- 総工費 50万円ニ對シ
 畢設計 8500.
 本設計一部 2000.
 豫算 1500.
 旅費日当等 2000.
 14000

山口仲次郎 設計者
 元陸軍技師
 武石邦比古 助手

全羅南道麗水郡
 突山面、栗林里産(黒)
 朝鮮威鏡南道利原郡昌興里
 遼瀋産(字真珠洞)(白及赤)

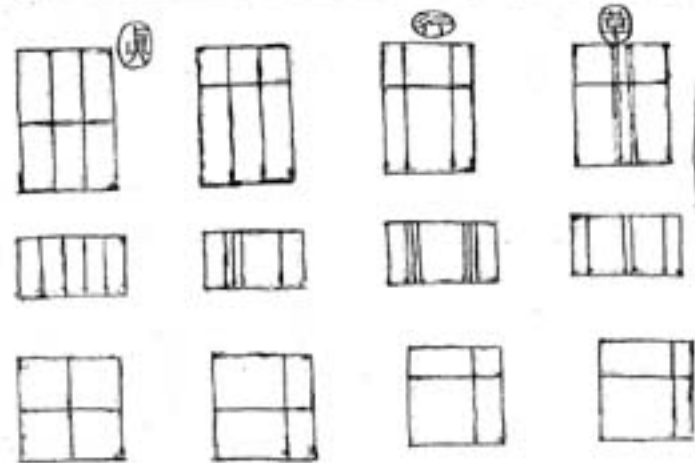
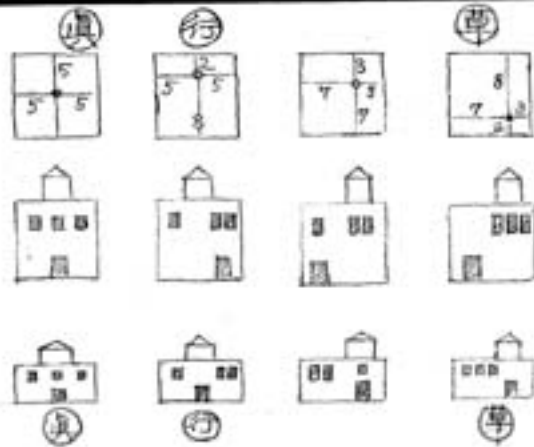
●東洋建築の價值
序

- 一 東洋建築とは何
- 二 古來歐米人名洋建築に對る態度
- 三 その原因
- 四 現代東洋研究の趨勢
- 五 東洋文明の淵源
- 六 東洋藝術の眞價
- 七 東洋研究に對する吾人の使命




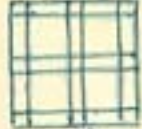




●藝術の眞行草

- 1 藝術は味の問題
- 2 味に對する鑑賞者は人に由り異なる
- 3 小兒と老人熱地と寒地習慣性癖
- 4 人は應じて考ふべきは作者の理念別
- 5 原料の調理法
- 6 線と色の配合
- 7 線ノ教向にテモ味ノ異ある例多し
- 8 世の中凡そ眞行草を藝術的に行く
- 9 衣食住文話動作を例
- 10 内を以て外が草は堅字
- 11 金の問題に及ばず意匠の問題
- 12 多々金をかける程は趣味にあらず
- 13 金をかけずは味のよいものを求めよ。



真行亭



1	2	3
		
真	草	行
		
真	行	草





五六二尾崎洋雄
 五二六岸本康通

五一九五
 〇内田信也
 二五二九
 宮古秋三郎

二五九二高木
 一五八三近藤

二四五八峰道
 二〇五七屋崎

九一四黒金
 九四五宮島

四一八六山平吉
 四〇三〇丸茂藤平

佐々木春作二〇九
 深田敬一郎一五八

高橋八五九
 田子八一〇

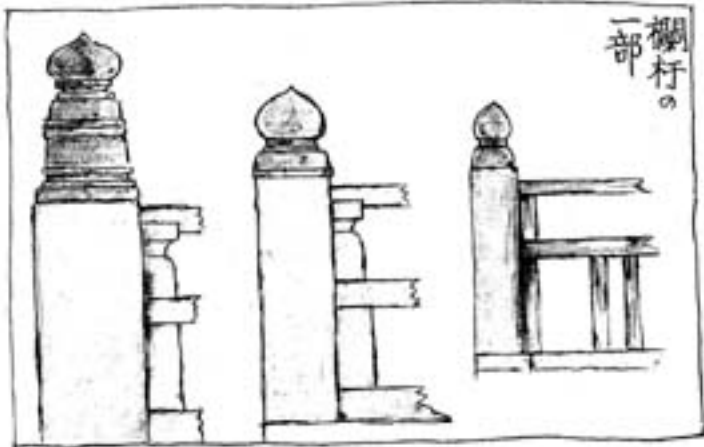
四〇一鳩山
 二一六佐々木

三四七岡崎邦補
 三四二谷井清一

二七八四中野正剛
 二七五八宮川一貫

二一八一荒井
 二四四七伊澤

欄杆の
一部



● 室内装飾の原理

- 一、室ノ母質人ノ好ミニ由リ、序ノ表
情知ニ各室又表情ナルベカラス、
一律ニ云ハシ難ト一般論ノミ
- 二、三階ニ合ツ
- A. 構造ニ其飾装飾トシテ
- B. 仕上ケニ装飾トシテ
- C. 家具ニ装飾トシテ
- D. 人ニ装飾トシテ
- 三、室ノ性質ニ調和スルヲ主眼トシ
- 四、如何ニ妥ムカラテ、一ニ趣方針分メ
- 五、二條ノ大廣間ノ例
- 六、
- 七、桂ヤ修学院ノ例
- 八、西洋厨ニ同ジテ
- 九、赤坂離宮、帝劇
- 十、要するに錦色、其ノ配合ハ如何トシテ、
異チテ生ズ。
- 十一、トーストノ云々先カニナリハ、身肉的
具体的問題、

帝都復興と新築の様式
 時事新報(三十四日十二)
 白木正史

- ① 建築に於ける様式の意義或
 - ② 既往に於ける様式観
 - ③ 現代の様式観
 - ④ 市街建築の條件
 - ⑤ 市街建築様式に関する世論
「インテリゲンチヤム」
 - ⑥ 「文章、精神」
「形式主義者」の建築様式と別
 - ⑦ 理屈と實際
「この如し」
 - ⑧ 學者と作家
 - ⑨ 東洋趣味
 - ⑩ 歐米追従の無意味
- 衣の材料構造と形とは別
 建築の人心——こゝは形の
 問題のみを云ふ

小出御太郎	奥繁三郎
戸田氏秀	青木大三郎
伊東祐順	河村善益
目下部四郎太	小山田信藏
守屋伍造	今村有隣
松方正義	今尾景年
黒田清輝	滋野清武
一徳実輝	山口俊太郎
田村春二郎	坂谷恭子
中成貞雄	田辺輝実
野田貞	阿部春秀
西村財多	今村勳三
市村政子	三遊亭内朝
安藤謙助	柴田睦作
慶島清兵衛	榎本武憲
郡司成忠	口以左
今西林三郎	佐々木吉三郎
本尾敏三郎	



● 還着於本人



震火一週年

◇ 回顧、

◇ 復興、

◇ 學術の革新、

◇ 地震學、

◇ 材料構造學、

◇ 心機一轉、

◇ 眞實なる世相

科学の進歩より文化の進歩文化の進歩
 大々災害の多クナル
 昨年の大災害は文明の餘善
 文明ニナル程災禍が多クイ、
 コノ災禍ヲ極力軽減スル為、科学ヲチケルハナラ
 不意味ニ於テ地震学ヤ構造力学等
 アリ、
 世ニ有リ科学ヲ尊重スル者ハ結構
 只災害ヲ止メテハ又客助長ノ具
 多クナルト勿レ
 利及テアルハヨク利永ヲ取扱フは意ヲ
 与ケルハ危キ利及テ取扱ヒ得ル知識
 マシムルハ危キ科学知識ノ普及ノ意
 ヲ極スルト切ナリ

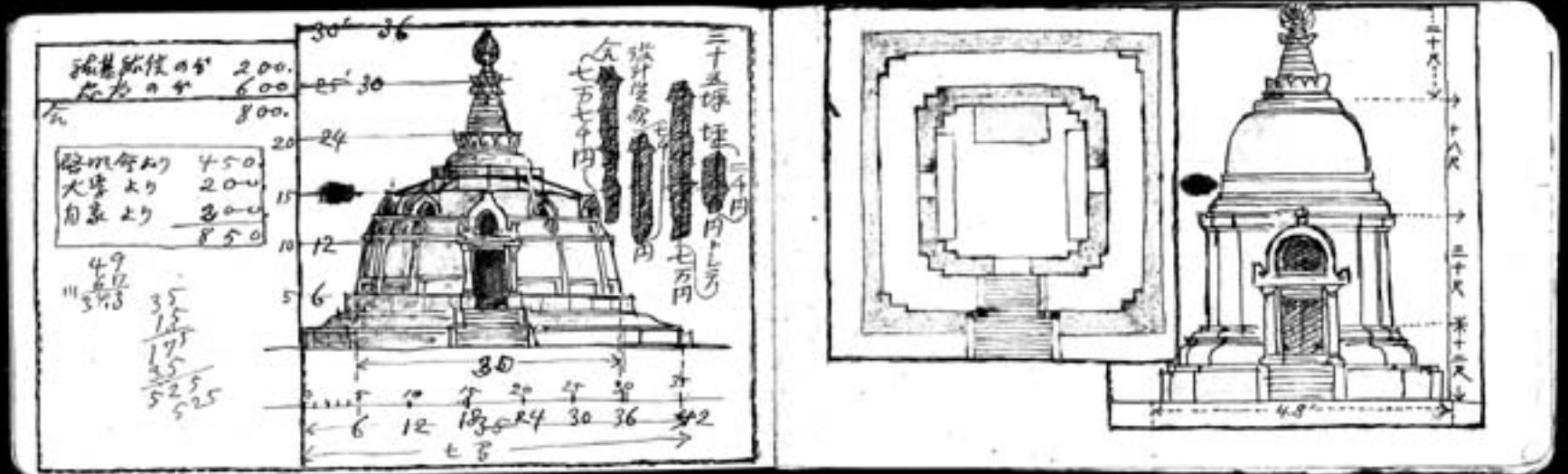
17月	25 金 朝出花	15 八ヶ岳山	6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川
26 土 山形 田代	16 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
27 日 山形 田代	17 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
28 月 山形 田代	18 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
29 火 山形 田代	19 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
30 水 山形 田代	20 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
31 木 山形 田代	21 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
1 金 山形 田代	22 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
2 土 山形 田代	23 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
3 日 山形 田代	24 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
4 月 山形 田代	25 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
5 火 山形 田代	26 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
6 水 山形 田代	27 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
7 木 山形 田代	28 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
8 金 山形 田代	29 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
9 土 山形 田代	30 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
10 日 山形 田代	31 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
11 月 山形 田代	1 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
12 火 山形 田代	2 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
13 水 山形 田代	3 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	
14 木 山形 田代	4 八ヶ岳山	7 8 9 10 11 12 13 14 15	秋田県 利根川	

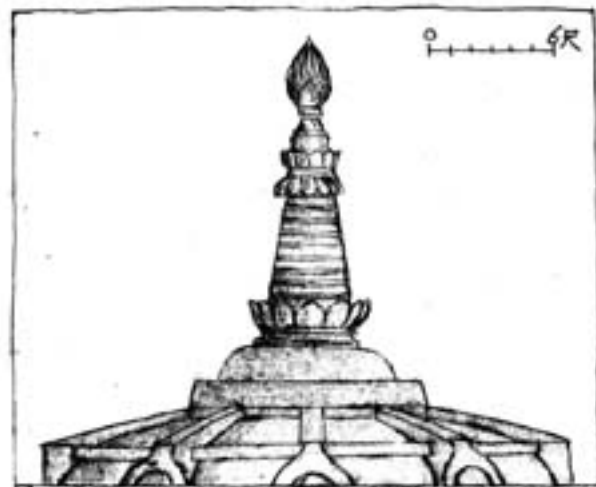
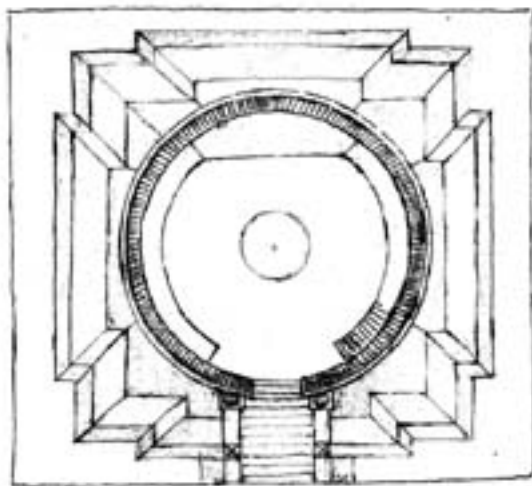
15	加古川	茶	田	尾
16	同	茶	田	尾
17	同	茶	田	尾
18	同	茶	田	尾
19	同	茶	田	尾
20	同	茶	田	尾

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
徳備一	香院	城堡	廟	津	堤	民	工	雜	銭
徳備一	香院	城堡	廟	津	堤	民	工	雜	銭

採算		収入
東加島	35	450 原取
西加島	75	200 大津
菅原	130	650
内地	60	残 70
八重山	50	
八重山	30	
首里	100	
船	30	
土産物	100	
	580	
西子	130	
両子	20	
	150	

出流		収入
東一	5	55 雑費
日光	20	残 59
日光	7	
米	10	
米	5	
土	5	
東	15	収入 70 雑費 (4月)
秋	20	残 30円
秋	15	
米	5	
米	5	
	60	







● 顔

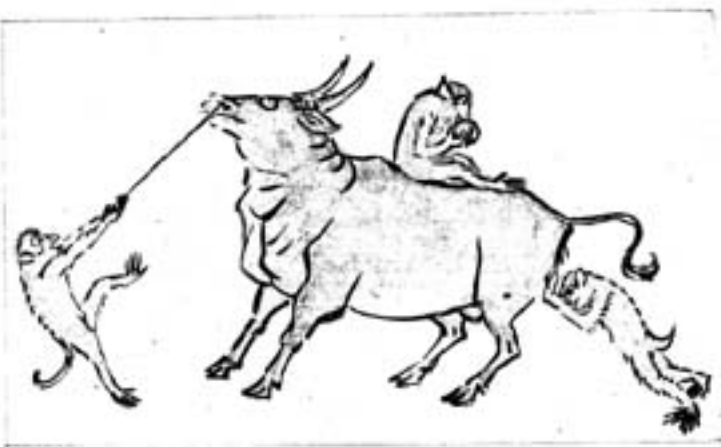
鼻中微妙あり顔、堪ろし顔。
 家傳ワ人舌馬鹿したか不實相。
 富相、仙頂ワス門板、苦虫美相、清
 秀、性質、教、判、り。
 特殊ノ表情、起テ得、る間、断、亦、露、肉、
 力、ハ、タ、ラ、ク、い、て、時、間、毎、に、顔、が、カ、ワ、ル、。

眞は
 赤飯
 人聞か
 有る



余の顔は、流、半、中。
 小面、増、く、兎、の、寝、敷、か、ら、夫、は、可、愛、い
 天、眞、の、美、天、
 寝、婦、ヲ、ツ、ツ、プ、リ、八、百、玲、瓏、ノ、紳、士、の、獲、が
 ヲ、ド、ス、ル、程、恐、ロ、シ、イ、テ、ガ、ア、ル
 秋、迎、テ、家、ヲ、出、ル、ト、モ、侍、女、等、ノ、姿、を、見
 テ、愛、ヲ、ツ、カ、シ、タ、ト、云、夫、定、め、て、昼、は、婿、を
 見、テ、モ、美、人、カ、眼、ヲ、居、ル、時、本、性、を
 呈、養、ト、モ、悪、ナ、ノ、様、々、與、と、さ、ら、け、レ、タ
 ノ、タ、ト、モ、可、知、カ、。







十月十二日 (太陽漫画) (大塚由日)

十月二十日 (斜集氣流号)

十月二十五日 (友傳原稿)

十月三十日 (横濱設計室)

十一月十五日 (中山室設計室)

十一月十五日 (上ノ大仏屋設計室)

十一月二十日 (回サシノ間)

十一月二十五日 (密屋設計室)

十月十日 夜野舎 六時 中央号

十月十日 夜野舎 五時

十月十三日 夜野舎 五時 花月

三樹一平
 戸川 露花
 手塚 正次
 谷交 貞男
 コンボース
 青木 宣純
 中村 善
 速 剛方印
 糸井 靖之助
 富岡 鉄斎
 大井 才右郎
 中村 啓二郎
 岡 寄 芳樹
 村田 保
 紫田 睦作
 植村 正久
 木内 聖四郎
 久我 通久
 川路 利恭
 久保田 政周
 藤間 勘翁
 クロハトキン
 中村 覺
 孫 文
 塩谷 時敏
 横田 千之助
 東儀 鉄苗
 菱田 唯藏
 宋 東珍
 高橋 克己
 中原 南天坊
 大島 盈株
 後 田 康吉
 中島 鏡治
 岡 和知
 小布 施彰三郎
 佐柳 藤方 37

鏡木 繁
 エーベルト
 小池 国三
 井口 省吾
 三島 通良
 孫 文
 榑 高礼志
 中ソソ
 土心 光全
 仁田 重行
 岡 玄卿
 米原 雲海
 河原 多能達
 小川 滋次郎
 佐野 静雄
 江木 表
 手田 吉助
 松木 新二郎
 久野 公三子
 鈴木 實之助
 大尾 謙作
 徳川 頼倫
 榑村 吉守
 フレンチ元師
 上野 英三郎
 須田 利信
 平瀬 興一郎
 大町 芳海
 木村 庄之助
 矢島 樺子
 佐藤 顯理
 那 桐
 小倉 井 芦州
 毛利 安子
 シンクロフト
 辰野 宗義
 高橋 巖密王
 堀田 正徳

十五年
 松下 領三
 菊池 九郎
 村井 吉兵衛
 鈴木 惣兵衛

長野 純藏
 平山 松治
 坂 伸輔
 田中 重
 山根 正次
 石井 謹吾
 阿部 正切
 シンシヨウ
 寺尾 亨
 戸田 海市
 由比 光助
 天川 保
 田中 康昌
 浜尾 彰
 湯本 武比古
 山 隆 玄
 大 芝 惣 老
 野 岑 武 吉 郎
 前 田 哲 太 郎
 塚 口 慶 之 郎

道家 育
 松本 源太郎
 加納 欽哉
 錫島 直虎
 石川 半山
 下 岡 忠 治
 山 田 鉄 藏
 アヒキ サンドラ
 大 浜 忠 三 郎
 ラマ 才 六 世
 藤井 包 総
 モール ス
 坂本 紅 蓮 洞
 岡野 教 次 郎
 毛 利 五 郎
 岡部 長 職

投稿 現代 (五月十日限)

時事新報五月三十日限

建築の行くべき道

1. 世智手ノ世高利ノ金
2. 必要ノ限度
3. マツ箱ハ不得已
4. 理想ニアラス
5. 込美ヲ求ムルヲ得
6. 木綿ヲモ美アス
7. 絹帛ヲモ美アス
8. ガラス模造キタツ合々整然ナレ
9. 統一アル共存主義相輔ケ美ヲセ
10. 色ノ研究 表面裝飾
11. Styleノ変遷ス
12. 史的Styleノ復興ヲ期待ス

建築の日本 (五月三十一日限)

東洋建築の共通的性格

建築家、立場カフ。

1. 一切ヲ仕切レテ、吾ノトスルモ、理應通りニ行カヌ
2. 建築家、技能、頭ト手ノ問題、コレガ合致セズバマラヌ
3. 頭斗ツ、建築一考ヘハ面白イガ難マリガツカヌ(マツイ)
4. 手斗ツ、建築一自由自在ニ意匠ダガ獨創的急流カ押ヘラヌ(ダツレナイ)
5. 建築家ハ万能デナイ
6. 一氣呵成ニコカヌ。
7. 設計カ、竣工カ、一年乃至数年ノ間ニ考カケル。新レ材料構造、新レ手法、新レStyleカ出来ル
8. 建築家ハ大成出来トツ場合ニハ、自カノ作品ニ不満ヲ感スル
9. 出来ト迄ノ樂シ。出来ト仕舞ヘバマラヌ。

更ニ實際問題ハ

1. 何トテモ金
2. 地位 必要ナル止ム
3. 満式 和風味
4. 併シテカサニ 趣味ヲ求ムヘシ
5. 0.1 暮イ行キ丈ノ 整ワケ木障子
6. 0.1 暮イツビマノ 金ハス 障子
7. 談者美ハ 金ノ 問題ト建フ
8. 築式ヲ 表面ヲ Tille 色ヲ 換ルテ 見ケル 法モアル
9. 有ラセ 安イ 材料ヲ 面白ク 使ヒトス 法モアル
10. 高利貸ノ 高利金ヲ 借リテ 不経済ヲ 賛成シ 建築ハ 遂ニ

7. 建築家、理想通り行カズ (西劇整理ヲ見テモナル)

2. 建築家自ラ作ル能ハズ 一 絵画ヤ彫刻ト大差アリ
3. 三角関係、注文者、建築家、請負者 一 依頼者 一 考案者 一 施工者
4. コレヨリ滿チ行カズト 破綻ヲ 生ズ、地震大害ト 古トテ 家ト 多数ノ 例
5. 依頼者ハ 成ルベク 建築家ト 成ルベク 依頼者ト 成リ 無理ガアル
6. 建築家ハ 成ルベク 依頼者、意ニ 従フ 無理ガアルト 成リ 自己意ヲ 貫徹セトスル
7. 請負者ハ 成ルベク 借付金ト スル 無理ガアル
8. 理想通り、建築ヲ スルコト ハ 一切ノ 建築家ニ マカセテ
9. 小堀遠州ト 本間、故(コトハツグノ アノ アノ) Parthenon 4 Taj-mahal
10. 31ト 帝國大ナル 借付金(アノ アノ) 徹底シクモ、
11. 不役時 仕事ニ ロクナモノナシ
12. 多数政治ニ ロクナモノナシ
13. 建築家ヲ 借頼セテ
14. 一般国民ガ 建築ヲ 理解スル
15. 建築家ト 請負人ト 徳義ヲ 守ル
16. 徳義 一 熟識 一 投資 一 資金
17. コレガ ヲロハシバヨク 建築ノ 出来ヌ

實際問題 (Functio nalscip 7 主トシ)

建築の目的、手段、材料、形式、一連の順序、少クハ四大別トシ

- 1. 住宅建築 → 機能中心 — 洋風 — 歐風、和風 —
- 2. 市街建築 —
- 3. 公共建築 — 生活中心 — style free — 木造、鉄筋、コンクリ、此
- 4. 地方農業 —

今後建築の進歩の方向は如何
 都市建築の中心トシテ凡ク建築カコルコトヲアケラレ
 新設計材料構造
 新設計設備
 新設計裝飾
 新設計形式

- 1. Plans 利便
- 2. 構造 堅固
- 3. 内外觀 美
- 4. 設備 完全
- 5. 土費 適当
- 理想 設備 1 件
- 正 同 部 入

1926.1.24

3
20
18
17

1. 建築向上に、諸君の理解は如何なる
 程度(程度)に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に

2. 建築向上に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に
 如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に

3. 工業向上に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に
 如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に

1. 建築向上に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に
 如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に

2. 建築向上に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に
 如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に

3. 建築向上に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に
 如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に

大島の見聞は如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に
 如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に

如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に
 如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に

如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に
 如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に、如何なる程度に

15. 技局理念の進化

- 16. 理想一説 = 権威主義
- 二説 = 歴史主義
- 三説 = 獨創主義

食物/理想 1. 美味 2. 栄養 3. 安価 — 原料と調理術
 建築/理想 1. 美観 2. 実用 3. 経済 — 坪数と技術

(直観) (利用)

↓ ↓

[] 藝術 科学 工業的

技局主義の具象化
 Art + Science が Art + Science 工業が Art +
 自由な大衆が 高工が 美術が 技術が 政治が 経済が
 Classic 的 / 美観、実用、経済
 建築の進歩、Principle を 確立し
 建築の進歩と美観と 1. 2. 3. の 確立あり、今が 融和の時代、
 コレが 進歩の 見出された 建築、一説
 建築の 進歩は 美観、実用、経済

Ⅶ 結論 理念 二十四

1. 何ニシテモ建築ノ根本ニ立脚セヨ — 技藝ハ滋ク尚ナク
2. 根本トハ何 1. 個體物ノ目的ニ適合スル之ナリ
3. 目的ノ如何ヲ考ヘズシテ一律ニ云ノベカラス
4. 目的ノ千差万別ニ從テ建築モ千差万別ニナレ
5. 美觀ヲ為、實用ヲ為、生活ヲ為、体裁ヲ為、何、何ニモ之レク考案ヲ要ス
6. 堅固ト云フモ本意ハ堅固ヲ作ラズ
7. 美觀ト云フモ本意ハ美觀ヲ作ラズ
8. 技術物ニ應ジテ適宜ナルヲ要ス
9. 出来得ルニ至テ、堅固ナク、美シク、経済的ニ(住宅ノ例) 衛生、住居ニ時ヨクセヨ、如何ニセバ宜キモセハ物ニ據リテ考ヘキ具體的問題
10. 要スルニ人生ヲ為、社會ヲ為、國家ヲ為、— 建築ハ為、健康ナラス
11. 堅固ニ對シテ堅固ト呼ビテハ不可 (市街建築ニ通用)
12. 美觀ニ對シテ美觀ト呼ビテハ不可 (全問題)
13. 堅固ニ對シテ堅固ト呼ビテハ不可 (特殊ノ意味ニ向テ)
14. 堅固ニ對シテ堅固ト呼ビテハ不可

7. 現代醒ますの如く如何にいかに設計を大に材料に於て
8. 俗然 跋末の引いづるの行方
9. 或る派の措置派 — 名セルゲンツノ如キ
10. 或る派の産生派 — 三菱銀行ノ如キ
11. 或る派の表現派 — 大田隆男ノ如キ
12. 或る派のコンクリート・造屋・糊塗の行方
13. 俗然 近年ノ大震大災 — 建築界ノ盛ト衰ス
14. 復興問題
15. ヤケブツ — 倫敦、シカゴノ例
16. 如何に新建築 — 大問題!! — 貞剣ノ覚悟 新試行 (好機会)
17. 旧来ノ趣クデハ無意味
18. フニニ 採ノ趣キ — 耐震耐火一点通りノ如ク
19. 他ノ奇巧突飛ナル外形一点通り
20. 様式ハ思ヒ思ヒ
21. 統一ハ無論不可能 — 変化ガ必用 — フノ内ニ統一
22. 近年ノ異観ヲ著クベシ

12. 構造派 - 材料構造、建築 - SCG の自然、出ル - 既解、一如不用 - 然裝飾即之美 - 構造即建築 - (談、易、指、妙、説、一、付、其、地、の、見、り)
13. 歴史派 - 古今東西、諸作例、の、暗、示、の、得 (模倣、の、ア、マ、ス) - 歴史以外、出、る、の、不、可、能 - 質、の、ハ、チ (模倣、の、得、の、チ、の、得、の、得)
14. 表現派 - 指定、歴史、の、中、に、中、に、次、に、見、ル - 自、然、主、義、の、音楽、の、有、り、の、表現、を、突、破、の、為、に、只、突、破、と、見、ル、ハ、見、ル、人、の、心、を、ミ、ト、解、ス - 大、胆 - 狂、想 - 心、の、造、り、に、大、胆、と、狂、想、と、が、似、合、ス - 表現、主義、の、造、り、の、進、歩、の、先、鋒
15. 野、圖、而、花、然、一、日、管、光、見、止、

IV 特編 **巨作ノ見方** (三十分)

1. 明治以来、欧米、近代、の、設計、の、建築、一、覽、ス、
2. 近年、の、移、植、時、代、
3. 十二年、の、シ、ン、ガ、イ、ン、の、建築、家、生、活、の、リ、ミ、ツ、ク、シ、ン、ガ、イ、ン、の、和、洋、混、合、の、模、倣、時、代、
4. シ、ン、ガ、イ、ン、の、シ、ン、ガ、イ、ン、の、建築、家、の、模、倣、時、代、
5. シ、ン、ガ、イ、ン、の、建築、家、の、世界、大、衆、の、模、倣、時、代、(只、造、り、の、為、に、)
6. シ、ン、ガ、イ、ン、の、現代、の、シ、ン、ガ、イ、ン、

IV 承編 [現在思潮] (三十一)

1. 現代建築の中心は、最も4種の根源にあり、その混成と融合の理由の史的研究の要なり。
2. 西洋史(西洋文化の歴史)に於て Classic 及び Gothic 等、
近世 Renaissance 等あり。
3. Classic 等の根源、Gothic 等の根源、Rom. 等の Classic 等 1900 年
4. 18 世紀末の歴史あり、19 世紀 = 近代史の混乱の歴史。
5. 19 世紀 = Classicism — 古典派 Classic = 歴史派、
Romanticism — 浪漫派 Gothic = 歴史派、
Eclecticism — 折衷派
Renaissance — 近世史の根源。
6. 19 世紀、政治的・経済的の諸問題の解決の歴史あり、英、France 等先駆的の史の大主入りあり。
7. Art nouveau, 等、Secession 等あり。
8. 21 世紀の歴史の根源あり、建築、本質の出現セトクニ、自然、
尊重、創意的な史の根源あり。
9. 21 世紀の科学、技術、交通、利、思想、量化、自個尊重、創意的
等あり、Archaeology、等と文化及東洋建築、研究。
10. 世界大戦以来、最も大戦、本質の - 1 -
11. 要するに三つ、group 2 あり。

建築の歴史

序編 (五巻)
 建築の目的、大肉體と果つ、
 問題、大肉體、政治、経済、社会、生活、秩序、藝術、他、同セキルヨリ
 1. 建築の目的、大肉體と果つ、
 2. 建築の歴史、
 3. 建築の理論、
 4. 建築の技術、
 5. 建築の文化、
 6. 建築の社会、
 7. 建築の経済、
 8. 建築の政治、
 9. 建築の生活、
 10. 建築の秩序、
 11. 建築の藝術、
 12. 建築の他、
 13. 建築の同セキルヨリ

1. 建築の目的、大肉體と果つ、
 2. 建築の歴史、
 3. 建築の理論、
 4. 建築の技術、
 5. 建築の文化、
 6. 建築の社会、
 7. 建築の経済、
 8. 建築の政治、
 9. 建築の生活、
 10. 建築の秩序、
 11. 建築の藝術、
 12. 建築の他、
 13. 建築の同セキルヨリ

序編

1. 序編

2. 序編

3. 序編

4. 序編

5. 序編

6. 序編

7. 序編

8. 序編

9. 序編

10. 序編

1. 序編
 2. 序編
 3. 序編
 4. 序編
 5. 序編
 6. 序編
 7. 序編
 8. 序編
 9. 序編
 10. 序編

1. 序編
 2. 序編
 3. 序編
 4. 序編
 5. 序編
 6. 序編
 7. 序編
 8. 序編
 9. 序編
 10. 序編

1. 序編
 2. 序編
 3. 序編
 4. 序編
 5. 序編
 6. 序編
 7. 序編
 8. 序編
 9. 序編
 10. 序編

1. 序編
 2. 序編
 3. 序編
 4. 序編
 5. 序編
 6. 序編
 7. 序編
 8. 序編
 9. 序編
 10. 序編

1. 序編
 2. 序編
 3. 序編
 4. 序編
 5. 序編
 6. 序編
 7. 序編
 8. 序編
 9. 序編
 10. 序編

1. 序編
 2. 序編
 3. 序編
 4. 序編
 5. 序編
 6. 序編
 7. 序編
 8. 序編
 9. 序編
 10. 序編

1. 序編
 2. 序編
 3. 序編
 4. 序編
 5. 序編
 6. 序編
 7. 序編
 8. 序編
 9. 序編
 10. 序編

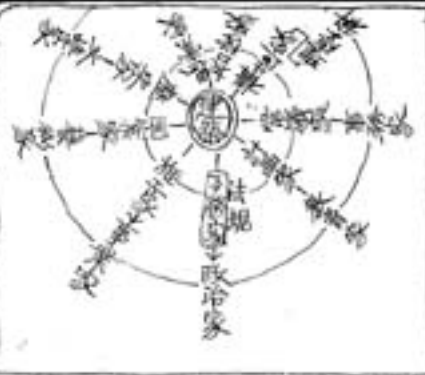
1. 序編
 2. 序編
 3. 序編
 4. 序編
 5. 序編
 6. 序編
 7. 序編
 8. 序編
 9. 序編
 10. 序編

1. 序編
 2. 序編
 3. 序編
 4. 序編
 5. 序編
 6. 序編
 7. 序編
 8. 序編
 9. 序編
 10. 序編

1. 序編
 2. 序編
 3. 序編
 4. 序編
 5. 序編
 6. 序編
 7. 序編
 8. 序編
 9. 序編
 10. 序編

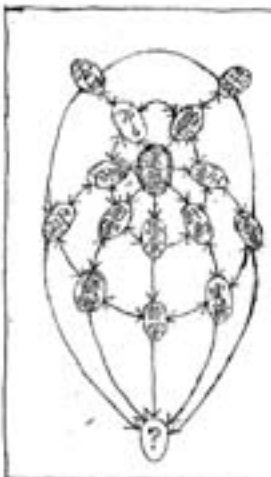
1. 序編
 2. 序編
 3. 序編
 4. 序編
 5. 序編
 6. 序編
 7. 序編
 8. 序編
 9. 序編
 10. 序編

1. 序編
 2. 序編
 3. 序編
 4. 序編
 5. 序編
 6. 序編
 7. 序編
 8. 序編
 9. 序編
 10. 序編



- 造園 — 理学家
- 計画 — 実務家
- 歴史 — 文藝家
- 図案 — 藝術家
- 施工 — 事務家
- 法規 — 政治家
- 学識 — 思想家

● 學識派
▲ 実務派
× 經營派



- ① 实用、先づ何物を作るかを考へる
- ② 様式、古今の例をとりて參考にする
- ③ 報告、如何なる材料構造力を考へる
- ④ 図案、図案を制作す
- ⑤ 計画、内外の諸設備衛生工事を詳密算出
- ⑥ 法規、法規に照してこれに背かず様にする
- ⑦ 設計、豫算を作り工率工事の方法を定む
- ⑧ 施工、實際の仕事に成就す



現在高 (四月九日)

260.00

買物	
牛二ツ	12.
人形一ツ	5.
豆人形	2.
アノコト	4.
ハノコト	3.
シノコト	3.
	37.

別府宿掛	52.00
別府雜費	8.00
紫丸賃	37.00
紫丸山雜費	10.00
津戸手都百	5.00
京都宿掛	18.00
京都買物雜費	26.00
京都二見宿	9.00
二見宿掛	21.00
伊勢買物雜費	7.00
二見東京間	23.00
寝甚急修費買物	20.00
	248.00
旅費	20.00
	268.00

1. 東京宿 (朝)
2. カゴト (夜)
3. カゴト (夜)
4. 伊勢着 泊一泊
5. 首里泊
6. 首里泊
7. 〃
8. 〃
9. 〃
10. 中郡探検
11. 〃
12. 〃
13. 〃
14. 首里着泊
15. 首里着
16. 八重山着
17. 〃
18. 〃
19. 八重山着
20. 首里泊

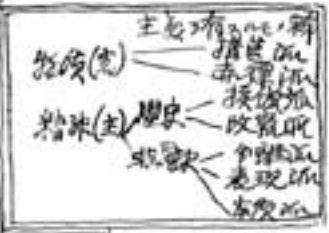
21. 首里泊
22. 首里着
23. 〃
24. カゴト着泊
25. カゴト着泊
26. 福岡着
27. 一東京着

合計 450.
大卒 300.

首里八泊	(十五円)	120.
八重山三泊	(十二円)	36.
中郡地方四泊	(十円)	40.
東京-各地方沖船復運		189.
各地方旅費		100.
雜費		30.
土産品		140.
仕度費		50.
土産品		50.
		740.

Lithin コンクリート上仕上り剤、色ハ自由、出テ堅牢 (毎十ニ円)
Kunststein 各種ノ形、色澤ヲ選リ、特殊ノ味ヲ出ス
懸修ナル建築界ト建築家

- 1. 序言
- 2. 大塚大夫の回想
- 3. バラックと美ノ中心
- 4. 高級バラック時代
- 5. 都市計画(漢學院、経道)
- 6. 余ノ意見
- 7. 樗牛観(學說現況)
 - A. カクノ鑑時流
 - B. 軽薄乱雜流
- 8. 余ノ學說(大塚ノ下リ)
 - 指點派 - 佐野
 - 感嘆派 - 長野
 - 表現派 -
 - 分離派 - 堀内、河野
 - 裝飾派 - 高村、鹿本
- 9. 樗牛観
 - 樗牛派
 - 折衷派
 - 若井派
- 10. 統一と變化
- 11. 建築家ノ責任
- 68.



はる
よう子五ツ
とや子セツ
中ニ
九ツ

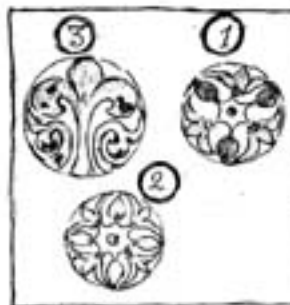
河野 誠 (土木編輯在任)

藝術

- 1. 藝術ハ無形ノモノニシテ、思想、
 - 2. 現ハルヲ繪、彫刻、建築、音楽、演劇、演歌、音楽、
 - 3. 現ハルヲ手段ヲ要ス。繪、彫、彫刻、建築、音楽、
 - 4. 手段ノ方ハ藝術トモト交感ナレ。意匠ノ、
 - 5. 意匠ハ手段ノ方ハ藝術トモト交感ナレ。意匠ノ、
- 線ノ意味ハ價アリ

裸体建築

1. 裸体ノ美一何可ニ裸体カ美
2. 建築ノ構造表現ノ裝飾無用論—Henry Van de Velde 1866
3. Secession, 一派(構造派—Peter Behrens)
4. 最近日本ニ行ハル
5. ハダカノ羅中ノ出来ヌ—自己建築ハ可—公衆建築ハ不可
6. 衣物カ必要—衣紋ヲ整ヘヨ
7. 衣カトシテ肉体ノ美カ見ハル點更ニ更
8. 建築ノ外観ヲトシテ構造ノ堅固カ見ハルヲ要ス。
9. 素裸ノ建築論ハ藝術家ノ建築論
10. 世間人生ノ建築論トモト通用シテイ。
11. ナルノ真理ハ不可没。



1. 建築ハ科学カ藝術カ序
2. 建築ノ目的—人文、社会、生活
3. 建築ノ手段—現代思潮
4. 構造主義
5. 歴史主義
6. 分離派
7. 無限ノ領土
8. 日本ノ立場カラ
9. 市郡環典ノ建築
10. 实例ノ二三
11. 建築ノ木質ト思想確立
12. 結尾

建築ノ理想

③
 能クマテ敵ト闘ヘ
 敵ヲバハシケル、戦ヲヒスルヲ
 忍耐セヨ、徳土運來セム
 敵ノ敵ト覺スマテ敵ヘ

④
 能クマテ神仏ヲ崇敬セヨ
 窮スル時ニ救ヲ神仏ニ求メヨ
 忍耐セヨ、神仏ニ依頼セヨ
 救ヲ得ルマデハルイマデ祈レ

⑤
 1能クマテ父ノ孝ヲ兄弟朋友ノ親ノ
 3處ノ愛ヲ敬慕ニ求メヨ
 2處ノ愛ヲ敬慕ニ求メヨ
 4愛ニ生カソク愛ニ死セム

②
 能クマテ君ヲ慕フ、臣ノ志ニ竭セ
 能クマテ世ノ為人ノ志ニ竭セ
 自信シテ人ヲ凌フナ

朝鮮

1. 序
2. 大震火災
3. 原始的パツクと高級パツク
4. 都市計画の経緯
5. 都市計画の審査
6. 都市復興の建築 8. 建築思潮
7. 理屈例の概略 9. 結尾

勸業

1. 科学 進歩 - 材料 - 構造 - 表現
2. 経済問題 - 工場 - 住宅
3. 思想問題 - 民生 - 自己本位表現
4. 生活問題 - 文化生活
5. Functionalism - 機能主義
6. Compositionism - 整形式主義

啓明会建築の理想と表現

1. 序 建築の意義我國實現
2. 建築論の混雑
3. 西洋本位と日本本位
4. 自己本位と公共本位
5. 建築は確立難
6. 人生と世相の立脚
7. 構造主義とその批評(耐震火)
8. 民生主義とその批評
9. 人生主義
10. 作例 - 公共建築(帝國ホテル)
11. 作例 - 個人建築文化住宅
12. 今後の建築
13. 結尾 理屈例の一般國民、一般の理解

雑誌先現ハルタ色統計

赤 77.0%
 赤柑 8.
 黄 6.
 黄蜀 19.
 緑 6.
 紫 5.

総メラレル大味雑

地文字	又
黄黒	375.75
白黒	367.68
白緑	364.68
白赤	364.50
白青	357.06
青黒	352.11
白黒	351.00
赤白	350.40
緑白	341.41
黒白	340.98
黄赤	333.54
赤緑	296.34
緑赤	291.78

論文

浅野 80
 三浦 80
 大島 80
 鷗見 75
 五十嵐 75

建築史

三浦 甲
 浅野 甲
 中大 甲
 奇島 甲
 酒見 乙
 大西 乙
 甲野 乙
 小林 乙
 小沢 甲
 大原 乙
 小川 乙
 横見 乙
 鷗見 乙
 五十嵐 乙
 杉山 乙
 本内 乙

田乙

設計 百円
 本設計 百円ニ
 マ外遊費 日吉 某千
 特許 調査費 某千
 特殊ノ建築ナルカガノ割増金

思化押、本設計ヲ以テ備セリトシテ
 報酬ヲ入專令既望ノモノヨルヲ直チ
 トス、
 但シ支那建築ハ特殊ノモノニテ尙ホ
 ヒモノ故、但書ニヨリニ割増スラ
 適当トス、
 設計且備セザルキハワノ控及ニ屬ス
 割引ス、コハ設計者ヲ欠ケルベカラズ

蓋 賞

金子	$150 \times 6 = 900 + 75 + 100 = 1075$
次	$100 \times 6 = 600 + 50 + 70 = 720$
次	$70 \times 4 = 280 + 35 + 50 = 365$
	2160
筆墨紙その他	50
	2210

自	大正十三年三月十五日	$150 \times 7 = 1050$
至	九月十五日	$100 \times 7 = 700$
	総工費 七十萬円	$45 \times 2 = 90$
	累設計 五百円	1840
	本設計 二千五百円	
	合計 三千円也	

耐震、恐怖心理

耐震対策の鉄筋の絶叫

三、コシは可只コ外ニ考スルキナキナキヤ

四、体裁問題、倫義ニカマヘト云ハヌ、公衆環視、都市ニ美カ重要

五、都市ニ美ハ、道路ト街路、橋梁等

六、夜ヲ見ヨ、何多ク、襟取リ、ヒ、

七、美ノ概念、形、原素ノ裝飾

八、金ガカルト思フ勿シ、

九、美ノ精神尚堅、色ノ問題ニカマヘ

十、美人ハ装ハスニ美、醜婦ハ装ヲ巻キ

十一、目鼻ノ微妙ナル点ヲ美トナリ上品トシ

十二、直線ハ美人程デナキモ同理想

十三、サテ如何ナル形

十四、四角ト丸ニ穴、人間ノ業、コシカ大伴

十五、方針、ノ箱ノ微細ナル形穴ノ形、

十六、適当ナル裝飾

十七、日中ノ古代ノ家殿ヲ探スルニカマヘ

十八、アメリカノ高層ビルヲ探スルニカマヘ

十九、現代白女人趣味ヲ基トシテ之ニ適ス

二十、スタイルヲ適フコト、即チ日中ノ新建築

二十一、九、骨々ナル建築ガカニヨリテ大成セバハ

二十二、但シ一律一型ハ不可、同シ日中款式ト云

二十三、テモワノ古ニ変化アルベシ

二十四、高尚大サ、スタイルノ色、裝飾ニ於テ

二十五、モ変化アリテ美ナリ

二十六、ロウクをテノ北平病院ハ支那式ニ美

二十七、観テ、日中モリチモカ有テ此ハベシ

二十八、要スル耐震耐火一点張リ突ソレ以外

二十九、ヲ顧ヒヌヘハ不ナリ

三十、西震災ハ路十年一回ナル建物ノ外苑

三十一、ガハ毎日利便ナル

三十二、五十年一回ノ問題ノ為ニ毎日ノ問題ヲ

三十三、細部スヘカラス

三十四、廿六年中連年力作ラントスルニカマヘテ

三十五、一、高層ビルノ美ヲ探ス

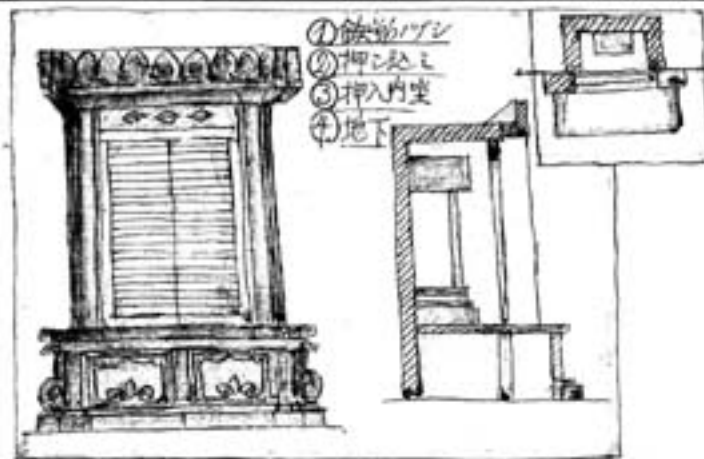
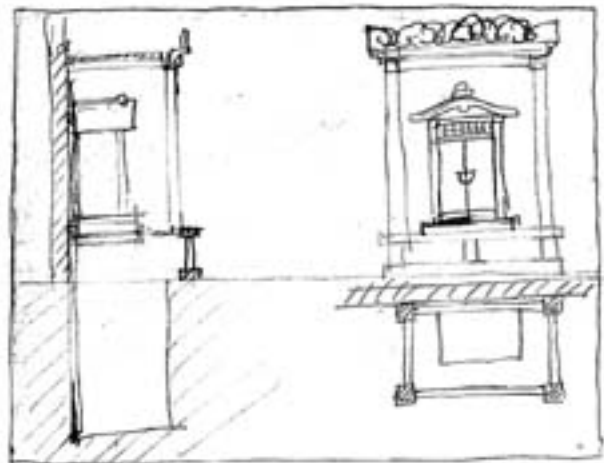
和田豊流
 戸田海平
 田中長兵衛
 相良頼信
 高橋頼朝
 竹中頼久
 中隈良元
 西村精一
 福原信
 澤村宗之助
 佐竹義準
 伊藤梅子
 五味内子
 中井兼左郎
 伊集院春吉
 磯田良
 安田篤

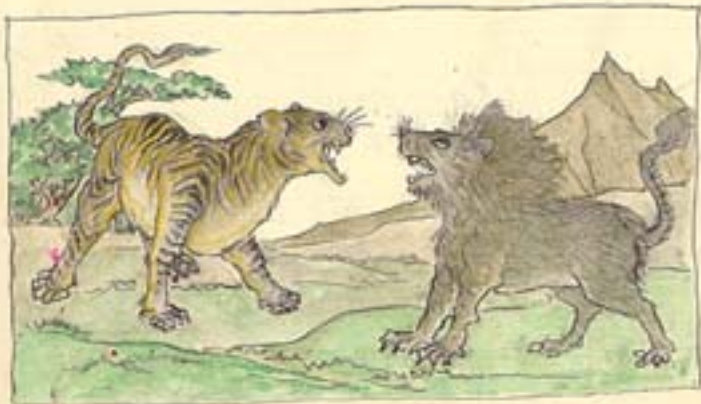
大井卜新
 小柴保人
 渡辺方右衛門
 源文
 正木重茂
 竹内貞哉
 佐分利一副

村下重多
 二一三
 王手
 白井三平

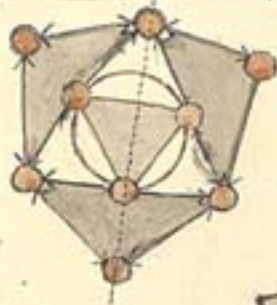
長の原南佐久郎の上村
 由比正孝

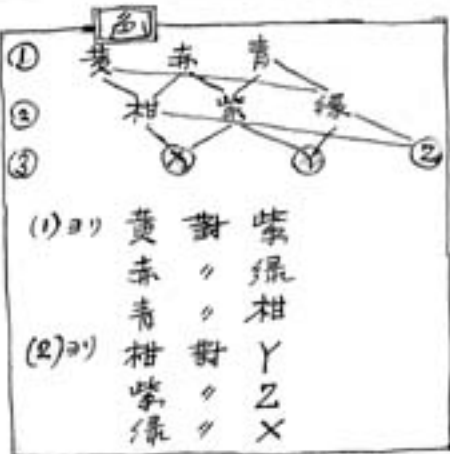
水野五郎





屋根ノ棟カタクサリヲニ本下セル工夫
衛風飛船回解
防火集回解(耐風耐震策)
中田東齋(江戸町医)
安政二年十二月出版





分量

黄 3, 赤 5, 青 8
性暖
紫 = 赤 + 青
紫 = 绿 + 青
赤 = 刺戟性
青 = 沈静性
满绿, 红, 有劲
满绿, 黄 = 引立

色

大面積 = 白色
小面積 = 茶色

白 + 黑 服装, 纏縮理
白 + 绿 大理石像, 樹林
白 + 赤 大理石 + 煉瓦 美人肌 + 裸

材料色, 顔料色, 磁土色, 上夜 + 下夜, 純白整物, 羽織 + 袴

茶

赤 ③ 黄 5 青 8 黑 ⑩

X

绿 ⑦ 紫 ⑤ 柑 ④ 白 ①

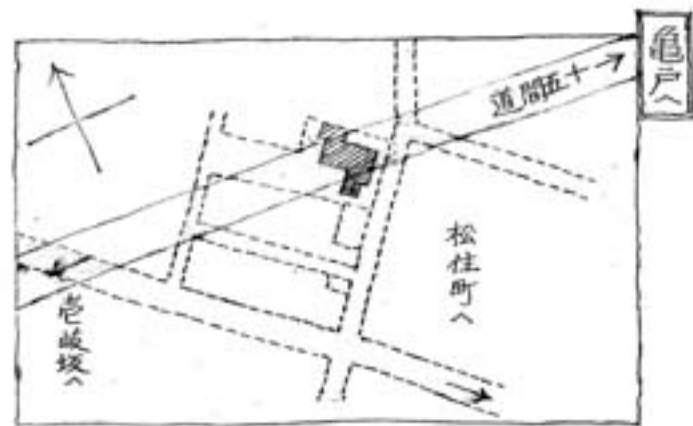
滑倒ノ原因

- ① 地盤
軟弱ノ地。山手ハ一割, 下町ハ二割—三割五割位 横道ニ對シテ
盛土, ガケ上, 谷,
- ② 設計不良, 材料ノ選擇, カノ計算, 權差, 不備。
Architect 形ノ研究 (Plan, 關係, 間仕切, 柱, Opening, 屋根, 重サ)
責任 (組長+ plan, 高さ Elevation, Topography, etc)
- ③ 施工不良, 請負人ノ胡廢化ニ 監督者ノ怠慢
請負者ノ責任。
- ④ 劣劣, 材料ASSハ, 71手等ヲ用ルル, 木材トシテ

建築ノ範事ノ耐震耐火斗リデナイ。コレハ一面ヲ云フ也。他ノ70% 今別述
ハ又, 今日ノ耐震耐火ノ關スル件

- 堅實— 風, 雨, 地震, 火事, 盗, 鼠, 白蟻等ノ破壞力ニ耐ムル堅實
- 適快— 利便, 衛生, 秋美等ヲ安, 任(心)地味トシテ... 精神
- 經濟— 低廉, 便繕, 耐久

鉄筋ガ一番コイ。只惜レズ内ハ住(心)地味ノフルイ。價ツコイ



昭和27年6月20日 東京地震

中央員舎 888 m.m. 高さ300 m.m.

損害	石造	3.47%
	煉瓦造	10.21%
	木造	0.49%
	土造	8.51%

即ち木造、耐震年大に煉瓦造、低知知に

木造住宅震害上提案

- 一割/時 建群、剥落、大化又剥落、一部崩壊
- 二割/時 長押や軒出し、接合部等折れ、家内歪み等、移動し、踏入れに倒れ
- 三割/時 大損傷、仕口脱出、壁折れ、柱折れ、土壁の崩れ、全体的移動、傾倒に家が多い
- 四割/時 破片及び家崩壊等、地盤に折れ

	全面積	焼失面積	割合
麹町	0.5290	0.1184	0.22
赤目	0.1993	0.1881	0.94
日中	0.1922	0.1922	1.00
京	0.2947	0.2532	0.86
芝	0.6088	0.1450	0.24
赤坂	0.2740	0.0198	0.07
四牛	0.2575	0.0001	0.00
小	0.1777	0.0039	0.00
下	0.3379	0.0002	0.00
浅	0.4211	0.0172	0.04
水	0.3130	0.0552	0.18
深	0.3271	0.1560	0.48
	0.3117	0.2991	0.96
	0.3940	0.3734	0.95
	0.5058	0.4277	0.85
	5.1458	0.2475	0.48

大震災焼失区域面積
(面積は方里)

地震ノ致

17 m m 以上ノ震

300. mm y 程度ノ震動, 土塊崩落, 柱上ノ瓦落, 掘地止ム
900. mm. 安定ノ石碑倒ル. 古ノ木遺棄倒ル
- 1200 mm. 普通ノ瓦造大軒ノ破壊, 木造建シ下リ.
- 2000 mm. 木造建シ全壊シ下リ. 片壁下リ.
- 2500-2600 mm. 木造全壊 2% 位. 煉瓦積造, 手度建シ下リ. 地割
- 4000 mm. 木造全壊 50-80%. 道路陥没線路曲ム. 手度大破壊
- 6000-7000 mm. 建築, 傾シ下リ倒シ. 潰レシ 1-3人移動ス.

以上ノ表ニ東永山ノ好直部 (2) 部 900 m m 位 - 一割

下町ノ豊部 (5) 部 2500 m m 位 - 一割位

浅草部 (6) 部 4000 m m 位 - 四割

最要部 (7) 部 6000 m m 位 - 六割

最大震度 - 最大震幅 180 m m.

八月

水	11	序論	同上
木	12	同上	同上
金	13	同上	同上
土	14	持性	同上
日	15	大相	同上
月	16	球元	同上
火	17	外園	同上
水	18	清雨	同上
金	19	西阜	同上
土	20	香島	同上
日	21	出港	同上
月	22	同上	同上
火	23	同上	同上
水	24	同上	同上
金	25	同上	同上
土	26	同上	同上
日	27	同上	同上
月	28	同上	同上
火	29	同上	同上
水	30	同上	同上
金	31	同上	同上

九月

水	1	同上
木	2	同上
金	3	同上
土	4	同上
日	5	同上
月	6	同上
火	7	同上
水	8	同上
金	9	同上
土	10	同上
日	11	同上
月	12	同上
火	13	同上
水	14	同上
金	15	同上
土	16	同上
日	17	同上
月	18	同上
火	19	同上
水	20	同上
金	21	同上

72

中野町宝仙寺

中野町敷地

中野町宝相寺 六一二七

中野町宝相寺

少長谷田江戶町一八六四

奇多振一

香蔵一連文一約六二

通高一四世一又世

(香蔵)

北田高二

存下下換谷六二八

濱岡周忠

坏砂霞

麻布市六所町二一七六

安成三郎

府下太久保一番地

神谷吉五郎

大震火

大正十二年三月
建築論を以て

大正十二年 大震火のまじり
建築論を以て